

シンポジウム「未来社会への挑戦～ナイス ステップな研究者 2007 からのメッセージ～」開催報告 企画課

科学技術政策研究所は、昨年 12 月、科学技術に顕著な貢献をされた 10 組 13 人の方々を「ナイス ステップな研究者」に選定した。科学技術週間を前にした 4 月 11 日、「ナイス ステップな研究者」の方々の業績を紹介すると共に、最先端研究を社会に浸透させるための方策についての討議をテーマに、文部科学省 3 階にある講堂にて午後 1 時 30 分から 6 時 15 分まで、シンポジウムを開催した。シンポジウムには、各方面の 150 名を超える方々が集まった。



挨拶をされる
原田文部科学大臣政務官

1. 講演

シンポジウムは、科学技術政策研究所木村良所長の開会挨拶に続き、原田文部科学大臣政務官からの来賓挨拶、2006 年度の「ナイス ステップな研究者」山中伸弥京都大学教授からのビデオメッセージがあった。

講演第一部では、最初に、東京農業大学応用生物科学部河野友宏教授が「単為生殖マウス『かぐや』」と題した講演で生殖に関わる遺伝子の興味深い作用について話した。次いで、京都大学物質・細胞統合システム拠点・工学研究科分子工学専攻の今堀博教授は、「人工光合成から太陽電池へ」という題で、サッカーボール型をしたフラレン分子を応用した人工光合成から効率のよい太陽電池開発へと発展した研究の内容を紹介した。また、首都大学東京都市教養学部理工学系の田村浩一郎准教授は、ゲノム解析によって得られる大量の遺伝子情報を効率よく解析するためのソフト開発について、「MEGA による生命情報解析への挑戦」と題した講演を行った。



筑波大学大学院システム情報工学研究科の山海嘉之教授は「ロボットスーツ HAL が拓く未来」と題した講演で、ロボットスーツ技術を筑波から発信して世界展開する壮大な計画を披露した。それに続いて、原田文部科学大臣政務官にもステージに上がっていただき、HAL のデモンストレーションが行われた（写真上）。

休憩をはさんだ講演第二部では、防災科学技術研究所防災システム研究センターの堀内茂木研究参事と気象庁地震火山部管理課の東田進也調査官によって、「緊急地震速報システムの開発」と実用化をめぐる話が披露された。さらには、科学とアートの融合を実現した博物館展示「ブンダーカマ一展 荒俣宏の宝物館」で選定された群馬県立自然史博物館の長谷川善和館長と博物学研究家・作家の荒俣宏氏から、それぞれ「自然史を見せる—大型動物化石の発掘から復元まで—」、「博物学へ

の招待」と題した楽しい講演が行われた。

2. パネル討論

最後のパネル討論は、女性科学人材育成に尽力している日本女子大学理学部の小舘香椎子教授、「使える数学者」の育成に取り組んでいる九州大学大学院数理学研究院の若山正人院長および九州大学産業技術数理研究センターの中尾充宏センター長、留学生としては初めての起業を果たした株式会社マルテックの林維毅代表取締役、有機農業の利点を科学的に裏付ける研究を行い、地域振興に貢献している福島県農業総合センター作物園芸部の二瓶直登主任研究員が登壇し、「人を育てる、地域を振興する」というテーマで討論した（写真下）。



討論では、小学生から大学院生まで、理科や数学などに対する勉学・研究意欲、あるいは一般人の関心を高めるには、実生活と科学技術を結びつける努力が必要だとの意見が出された。また、数々の規制を突破して起業に成功した林氏の「前例がないからこそやる気が出る」という発言が多くの共感を呼んだ。

3. ポスター展

シンポジウム会場には「ナイス ステップな研究者」の業績や活動を紹介する B2 版の大型ポスターも展示された。このポスターは、4月21日からの1週間にわたって文部科学省ラウンジで展示されるのを皮切りに、群馬県立自然史博物館、岐阜県のサイエンスワールドなどの科学館での巡回展が予定されている。